

安全データシート

SDS No.1001-0249

作成日 2011年 5月31日

改訂日 2025年 2月26日 1/5頁

1 化学品及び会社情報

化学品の名称 : Unibeads 1S / Unibeads 2S / Unibeads 3S
供給者名 : ジーエルサイエンス株式会社
住所 : 東京都新宿区西新宿6-22-1 新宿スクエアタワー30F
電話番号 : 03-5323-6611
FAX番号 : 03-5323-6622
緊急連絡先 : ジーエルサイエンス(株)福島工場 品質保証課 電話 024-533-2244(代表)
製品コード : 1001-15303、1001-15306、1001-15308、1001-15356、1001-15358、1001-15403、1001-15406、1001-15408、1001-15456、1001-15458、1001-15503、1001-15506、1001-15508、1001-15556、1001-15558、1001-、1003-
整理番号(SDS No.) : 1001-0249
推奨用途及び使用上の制限 : 試験・研究用

2 危険有害性の要約

Unibeads 1S、Unibeads 2S、Unibeads 3SはGC分析用充填剤です。本製品がカラムに充填された場合、外部に漏れ出すことはありませんが、情報提供の観点から、以下に充填剤の情報を記載します。
充填剤自体の情報も以下の通りです。

GHS分類 : 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 : 区分2B
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分3(気道刺激性)

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報

H320 眼刺激

H335 呼吸器への刺激のおそれ

注意書き

[安全対策]

P261 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。

P264 取扱い後は手をよく洗うこと。

P271 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

[応急措置]

P304+P340 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

P305+P351+P338 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P312 気分が悪いときは医師に連絡すること。

P337+P313 眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。

[保管]

P403+P233 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

P405 施錠して保管すること。

[廃棄]

P501 内容物や容器を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託すること。

上記で記載がない危険有害性は分類できない、分類対象外または区分に該当しない。

3 組成及び成分情報

| | |
|-------------|---|
| 化学物質・混合物の区分 | : 化学物質 |
| 化学名(又は一般名) | : Unibeads 1S / Unibeads 2S / Unibeads 3S |
| 濃度 | : 100% |
| 化学式 | : SiO ₂ |
| 官報公示整理番号 | : 化審法 : 1-548 安衛法 : - |
| CAS RN | : 112926-00-8 |

4 応急処置

| | |
|-----------------------|--|
| 皮膚に付着した場合 | : 石鹼と大量の水で洗い流す。刺激が直らない場合、炎症を生じた場合には医師の手当を受ける。 |
| 眼に入った場合 | : 直ちに、コンタクトレンズを外し、少なくとも15分以上大量の水で眼を洗うこと。こすると眼球を傷つける恐れがあるのでこすらないこと。医師の手当を受けること。 |
| 飲み込んだ場合 | : 水でよくうがいをし、大量の水を飲ませて、可能ならば吐かせること。気分が悪い場合には医師の手当てを受けること。 |
| ばく露した場合 | : 医師に連絡すること。汚染された衣類は再使用する場合には洗濯すること。 |
| 急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状 | : 眼や皮膚、粘膜に接触すると刺激性がある。長期暴露により不快感、腹痛、下痢、吐気等の症状が出る恐れがある。 |
| 応急措置をする者の保護 | : 救助者は適切な保護具を着用すること。 |

5 火災時の措置

| | |
|-------------|--|
| 適切な消火剤 | : 水噴霧、粉末消火剤、泡消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類 |
| 使ってはならない消火剤 | : 棒状水 |
| 火災時の特有危険有害性 | : 火災によって刺激性、もしくは有毒なヒューム(またはガス)を発生するおそれがある。消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。 |
| 特定の消火方法 | : 移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。移動不可能な場合には周辺を水噴霧で冷却する。消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。 |
| 消火を行う者の保護 | : 消火活動の際は、適切な空気呼吸器と化学用保護衣を着用する。 |

6 漏出時の措置

| | |
|-----------------------|--|
| 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 | : 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚や眼に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。風上から作業して、風下の人を退避させる。 |
| 環境に対する注意事項 | : 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。 |
| 封じ込めおよび浄化の方法および機材 | : 適切な保護具をつけて処理すること。漏洩物を掃き集めて密閉できる容器に回収する。 |

7 取扱い及び保管上の注意

| | |
|----------|--|
| 取扱い | |
| 技術的対策 | : 眼、皮膚への接触を避ける。取扱後は手や顔をよく洗うこと。 |
| 安全取扱注意事項 | : 容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに粉塵を発生させない。使用後は容器を密閉する。吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用する。取扱場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。 |
| 衛生対策 | : 取扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする。指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではいない。 |
| 保管 | |
| 適切な保管条件 | : 直射日光を避け、換気の良いなるべく涼しい場所に密閉して施錠保管する。 |

| | |
|-----------|--------------------|
| 技術的対策 | : 特になし |
| 混触危険物質 | : 酸性物質、酸化剤 |
| 安全な容器包装材料 | : ポリエチレン等(密閉できるもの) |

8 暴露防止及び保護措置

| | |
|----------------------|---|
| 設備対策 | : 屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、または局所排気装置を設置する。取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。 |
| 管理濃度 作業環境基準 濃度基準値 | : 設定されていない |
| 八時間濃度基準値 | : - |
| 短時間濃度基準値 | : - |
| 許容濃度 | |
| 日本産業衛生学会 | : 設定されていない |
| ACGIH TLV(s) | : 設定されていない |
| 保護具 | |
| 呼吸器の保護具 | : 防塵マスク。日本産業規格(JIS T8151)に適合した、作業に適した性能及び構造のものを選ぶ。 |
| 手の保護具 | : 不浸透性保護手袋 |
| 眼の保護具 | : 保護眼鏡 |
| 皮膚及び身体の保護具 | : 保護衣・保護長靴 |
| 適切な衛生対策 | : マスク等の吸着剤の交換は定期又は使用の都度行う。取扱い後はよく手を洗う。 |

9 物理的及び化学的性質

| | |
|------------------------|------------------|
| 物理状態 | : 粒状 |
| 色 | : 白色～少し黄色味かかった白色 |
| 臭い | : データなし |
| 融点/凝固点 | : データなし |
| 沸点または初留点 | : データなし |
| 可燃性 | : データなし |
| 爆発下限界及び爆発上限界 | : データなし |
| 引火点 | : データなし |
| 自然発火点 | : データなし |
| 分解温度 | : データなし |
| pH | : データなし |
| 動粘性率 | : データなし |
| 溶解度 | : データなし |
| <i>n</i> -オクタノール/水分配係数 | |
| log Po/w | : データなし |
| 蒸気圧 | : データなし |
| 密度及び/または相対密度 | : データなし |
| 相対ガス密度(空気=1) | : データなし |
| 粒子特性 | : データなし |

10 安定性及び反応性

| | |
|-----------|--------------|
| 反応性 | : データなし |
| 化学的安定性 | : 通常の条件下で安定。 |
| 危険有害反応可能性 | : データなし |
| 避けるべき条件 | : 湿気、日光、熱 |
| 混触危険物質 | : 酸化剤、酸性物質 |
| 危険有害な分解成分 | : 有害なヒュームなど |

11 有害性情報

| | |
|-------------------|---------|
| 急性毒性(経口) | : データなし |
| 急性毒性(経皮) | : データなし |
| 急性毒性(吸入: 蒸気) | : データなし |
| 急性毒性(吸入: 粉じん、ミスト) | : データなし |
| 皮膚腐食性/皮膚刺激性 | : データなし |

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

: ウサギを用いた眼刺激性試験 (OECD TG 405) において、沈降シリカ (CAS番号: 112926-00-8) 適用による刺激性はみられなかったとの報告がある (SIDS (2006)、ECETOC JACC (2006))。また、形態の異なる沈降シリカ又は非結晶性シリカ (CAS番号: 112945-52-5) をウサギに適用した試験の報告が複数あり、眼刺激性はみられなかったとの報告や、軽度の結膜炎、軽度から中等度の結膜発赤、角膜混濁がみられたとの報告があるが、いずれの症状も回復性であったとの報告がある (SIDS (2006)、ECETOC JACC (2006))。

呼吸器感作性 : データなし

皮膚感作性 : データなし

生殖細胞変異原性 : データなし

発がん性 : データなし

生殖毒性 : データなし

特定標的臓器毒性 : データなし

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

: シリカゲル (CAS番号: 112926-00-8) は気道刺激性があるとの報告 (SIDS (2006)、ECETOC JACC (2006)) から、区分3 (気道刺激性)。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

: ヒトにおいて、石英、クリストバライトでは珪肺症が報告されている。また、実験動物においても石英、クリストバライトで線維形成性があることが報告されており、そのほか、石英では自己免疫疾患、慢性腎疾患及び無症状性の腎変性、溶解シリカで金属ヒューム熱のような回帰熱の報告がある (ACGIH (7th, 2006))。

誤えん有害性 : データなし

1 2 環境影響情報

生態毒性 : データなし

残留性・分解性 : データなし

生態蓄積性 : データなし

土壌中の移動性 : データなし

オゾン層への有害性 : 本製品中の化学物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

1 3 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。
都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託処理する。

汚染容器及び包装 : 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

1 4 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報 : IMOの規定に従う。

UN No. : 規定されていない

海洋汚染物質 : 非該当

航空規制情報 : ICAO/IATAの規定に従う。

UN No. : 規定されていない

国内規制

陸上規制 : 非該当

海上規制 : 船舶安全法に従う。

国連番号 : 規定されていない

海洋汚染物質 : 非該当

航空規制情報 : 航空法の規制に従う。

国連番号 : 規定されていない

緊急時応急措置指針番号 : 非該当

1 5 適用法令

| | |
|------------|--|
| 毒物及び劇物取締法 | : 非該当 |
| 労働安全衛生法 | : 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 規則別表第2 No.1568(非晶質シリカ) 【令和8年4月1日以降 該当】 |
| 化管法 | : 非該当 |
| 化審法 | : 既存物質 |
| 消防法 | : 非該当 |
| 船舶安全法(危規則) | : 非該当 |
| 航空法 | : 非該当 |
| 海洋汚染防止法 | : 非該当 |
| 水質汚濁防止法 | : 非該当 |
| 大気汚染防止法 | : 非該当 |
| 土壌汚染対策法 | : 非該当 |
| 廃掃法 | : 非該当 |

1 6 その他の情報

引用文献等

ezCRIC 日本ケミカルデータベース株式会社
独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質総合情報提供システム(CHRIP)
化学品安全管理データブック、化学工業日報社
16918の化学商品、化学工業日報社(2018)
航空危険物規則書 第64版邦訳 等・他

記載内容の取扱い

全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願い致します。